

北陸地域における道路交通情報に対する ドライバーの意識調査分析

金沢大学工学部 正会員 高山純一

金沢大学工学部 ○松本 司

金沢大学大学院 学生会員 酒井大輔

1. はじめに

現在、日本の道路交通社会には渋滞・交通事故・沿道環境や地球環境への影響など様々な問題を抱えている。こうした問題解決のひとつに「高度道路交通情報システム(I T S)」がある。I T Sの主な目的は、「人」と「道路」、そして「車両」を一体化することによって、道路交通の「安全性」、「輸送効率」、「快適性」を飛躍的に向上させることにある。そして、その具体的な方法としては、情報提供によって渋滞の軽減などによる交通の円滑化を通して環境保全に役立つことを目的としている。

道路交通情報の提供手段には、テレビ・ラジオ・や道路上に設置されている可変情報板・インターネット・ナビゲーションシステムなどがあり、提供される情報にも、渋滞情報や事故情報・目的地までの所要時間情報・観光情報など様々なものがある。しかし、道路交通情報はドライバーに対して強制力を持つものではなく、情報を信用するか、利用するかはドライバーの判断に任されている。したがって、効果的な情報提供を行うには、ドライバーの情報提供に対するニーズを知ることが必要である。

本研究は、アンケート調査により北陸地域におけるドライバーの道路交通情報及び情報提供施設に対する評価とニーズを明らかにし、どのようにしたらドライバーの道路交通情報の利用促進につながり、北陸地域の特性に合った道路交通情報システムの整備に役立つかを明らかにすることを目的としている。

2. 北陸地域の地域特性

(1) 北陸地域の自然条件

東西に細長く(平均約 400km×50km)、都市間の距離が長い。そのうえ、他地域との境界には山脈が位置し、多くの河川が存在する。そして、全地域が積雪地域であり、年間 50～100 日程度雪に覆われるため冬期における道路状況は凍り、滑るという状態が

存在し、非常に危険である。降雪・積雪・凍結に対応した道路交通情報が必要となってくる。

(2) 北陸地域の交通特性

図-1は、金沢、富山、新潟、東京の代表交通手段別トリップ構成比を表したものである。本研究の対象地域である北陸地域の都市は、東京などの大都市に比べて、人口密度が低く、公共交通機関の整備が難しく、旅客輸送の多くを自動車が担っている。

図-2は、北陸地域の貨物輸送の機関分担率を表

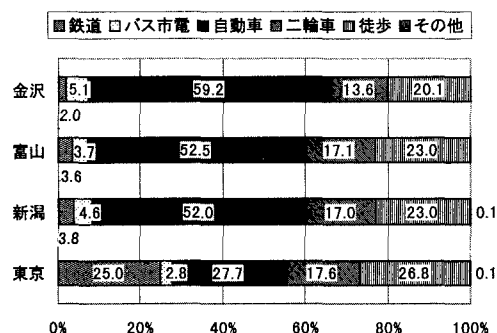


図-1 代表交通手段別トリップ構成比

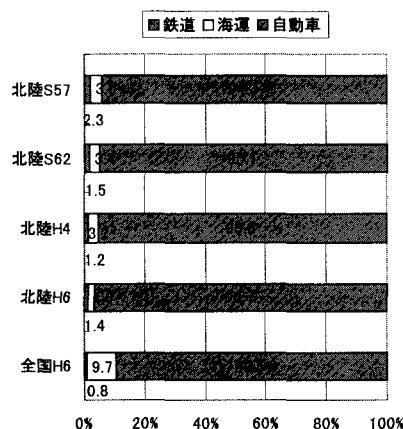


図-2 貨物輸送の機関分担率

している。トラック輸送の需要が高く、貨物輸送のほとんどを旅客輸送同様自動車が担っており、全国平均よりも高くなっている。

このように、北陸地域は、自動車への依存率が高く、都市内で渋滞が発生している。これからのITS整備には渋滞を解消し、効率的な社会・経済活動を支援していくことが求められている。

3. アンケート調査

(1) 概要

道路交通情報に関するアンケート調査を金沢市において平成10年12月に実施した。

(2) 調査方法

調査対象者を一般ドライバーと職業ドライバーの2種類に分け、アンケート用紙も2種類製作した。一般ドライバーには、サービスエリアにおけるヒアリング形式のアンケート調査と一般家庭へのヒアリング形式のアンケート調査及び配布・郵送回収、市役所・学校関係者への依頼、職業ドライバーには、運輸会社・宅配会社への依頼という方法で行った。

(3) アンケート調査の調査項目

アンケート調査の調査項目は以下のようになっている。

- 1) 個人の属性
 - ①性別
 - ②年齢
 - ③職業(一般ドライバー)
 - ④運転歴
 - ⑤高速道路の利用頻度
- 2) 過去1年間における道路交通情報の利用内容
 - ①移動の目的
 - ②道路交通情報の入手時期
 - ③道路交通情報の入手方法
 - ④入手した道路交通情報の内容
- 3) 道路交通情報への信頼度
- 4) 今後、一般道路運転中に入手したい道路交通情報(通勤・通学、旅行・観光、仕事・業務に区別)
- 5) 今後、高速道路運転中に入手したい道路交通情報(通勤・通学、旅行・観光、仕事・業務に区別)
- 6) 今後、サービスエリア・パーキングエリア利用中に入手したい道路交通情報(通勤・通学、旅行・

観光、仕事・業務に区別)

7) 今後、利用したい情報入手施設

(トリップ前・運転中に区別)

(4) アンケート調査の分析内容

調査対象者を一般ドライバーと業務ドライバーに区別してアンケート調査票を作成することにより、一般ドライバーと業務ドライバーの道路交通情報に対するニーズの違いを把握することができる。特に、業務におけるトリップの重要性や、トリップの目的に応じて、求められる情報の内容および提供方法に大きな差異が見られることが予想される。

4. おわりに

現時点では、アンケート調査のデータを分析中であるため、分析結果等については講演時に発表した。今回のアンケート調査の分析結果をもとにドライバーの道路交通情報に関するニーズを明らかにするとともに、道路交通情報の問題点、改善点等を見つけたし、北陸地域の道路交通情報の利用促進につなげていきたい。

今後の課題としては、今回は道路交通情報の提供に関する調査であったが、これに情報入手後のドライバーの対応行動に関する調査を加えることによって、一連の行動を多角的に分析する必要があると考えられる。

[参考文献]

- 1) 城戸正行、山岸将人、永田恭裕：「道路交通情報に対するドライバーの意識と行動に関する研究」(土木計画学講演集 No. 20(1) pp407～410/1997年11月)
- 2) 藤原章正、杉恵頼寧、重松史生：「自宅内で提供されたトリップ前情報が通勤交通手段選択意向に及ぼす影響」(第15回交通工学研究発表会論文集、pp. 81-84 1995)
- 3) 熊澤義昇、加治屋安彦、千葉隆広、石塚健司：「インターネットを活用した道路情報提供について—峠画像の伝送実験(第1報)—」(土木計画学講演集 No. 19(1) pp479～482/1996年11月)
- 4) 中村直久、加治屋安彦、千葉隆広：「97/98 冬期におけるインターネットを活用した峠画像の伝送実験」(第53回土木学会講演集 pp456～457)